

組織に点在する ID（人／Non-Humanを問わず）を横断的に可視化・監視・制御

Okta Identity Security Posture Management

クラウドサービスやスマートデバイスの発展に伴い、サイバー攻撃のターゲットとして「ID」が狙われるようになりました。その結果、攻撃防御のための境界の概念は、従来の「ネットワーク」から「ID」へ移り変わりつつあります。

Identity Security Posture Management：人/Non-Humanを含むアイデンティティの状態を継続的に確認し、設定や権限に潜むリスクを把握・整理するための考え方

このような課題はありませんか？

IDの棚卸をしても、常に増減を繰り返すIDの把握が追いつかない

過剰権限を持つIDやリスクのある設定が放置されている



AIエージェントの活用を進めたいがNHI*の管理が不安

NHIへの対策の必要性は感じているが、既存システムへの影響を考えるとなかなか踏み出せない

Okta Identity Security Posture Managementで AIエージェントやAPIキーなど、NHIを含む 組織内のIDを横断的に可視化・監視・制御

Before



NHIを含む各IDを
網羅的に把握することは困難

After



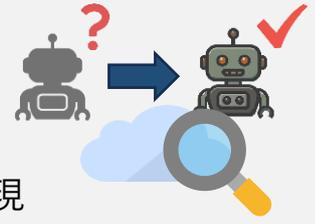
各IDがどこに存在し、どのような権限を持っているかを**可視化・監視**。
リスクを検知した際には**自動で修復**

* NHI(Non-Human Identity)：システムやアプリケーションが自動的に処理を実行する際の主体を表すID

Okta Identity Security Posture Managementの特長

包括的かつ継続的な監視により、IDの管理漏れを防止

- ・組織全体のID（人・Non-Human問わず）の構造を一元的に可視化
- ・一時的なリスク分析に留まらず、「継続的な監視」によって構成変更や新たなリスクの検知をリアルタイムに実施。
- ・NISTなどの主要なセキュリティフレームワークにもとづいたポスチャ管理を実現



過剰な権限や不要なアクセス、リスクのある設定を可視化・制御

- ・多要素認証が未設定など、各サービスのリスクを可視化し、自動で優先順位付け
- ・優先順位にもとづいた的確な対処を支援することで、限られたリソースでも「最小権限の原則」を確実に遂行し、セキュアなID運用をサポート



AIでNHIを自動識別、可視化し、放置されたシャドーIDを特定

- ・AIを活用した分析エンジンがNHIの種類を自動的に識別し、サービスアカウント、エージェント、API、トークンなどの種別にラベル付け
- ・NHIの数や利用状況を、人のIDと同様に可視化するため、AIや自動化の活用を進めながら、セキュリティリスクの低減が可能



迅速かつ容易に導入・使用開始が可能

- ・読み取り相当の権限のみで動作するため、既存の業務システムを止めずに利用可能
- ・各アプリケーションとの連携は数分程度で完了し、連携後はリスクの可視化を自動的に開始。



NHIを含めたIDの不正利用に対するガバナンス強化を支援！



日立ソリューションズでは組織全体のID（人・Non-Human問わず）に関するガバナンスを強化するためのコンサルティングサービスをご提供※。セキュリティリスクの可視化・優先順位付けから対策の導入・運用までトータルで支援します。

※2026年リリース予定

※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。 ※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。 ※本リーフレットの一部は、生成AIにより生成されたコンテンツを使用しています。 ※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。 ※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。 ※本リーフレット中の情報は、作成時点のものです。 ※本リーフレットの一部は、生成AIにより生成されたコンテンツを使用しています。

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp

本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報

<https://www.hitachi-solutions.co.jp/okta/okta/ispm/>

